

木の下館跡 4 次発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成 23 年 11 月 18 日（金）

調査要項

| | | | |
|---------|--|-----------------|----------|
| 遺跡名(番号) | 木の下館跡(県番号 203-048) | | |
| 所在地 | 山形県鶴岡市水沢字水京 | | |
| 時代・種別 | 中世・城館跡 | | |
| 起因事業 | 日本海東北自動車道(温海～鶴岡)建設 | | |
| 調査依頼者 | 国土交通省酒田河川国道事務所 | | |
| 調査機関 | 財団法人山形県埋蔵文化財センター | | |
| 現地調査 | 平成 23 年 9 月 20 日～11 月 25 日まで | | |
| 調査面積 | 750㎡ | | |
| 調査担当者 | 主任調査研究員 福岡和彦(現場責任者) 調査研究員 小笠原伊之 調査員 佐藤智幸 | | |
| 調査成果 | 検出遺構 | 溝跡 1 土坑 5 柱穴 18 | 性格不明遺構 1 |
| | 出土遺物 | 近世陶磁器、銭貨 | |



図 1 遺跡位置図

1 調査の概要

山形県教育委員会 1997「山形県中世城館遺跡調査報告書 第 3 集(庄内・最上地域)」の記載によれば、木の下館跡は築城者は不明ながら戦国期に築城された城館とされており、また旧浜街道をはさんで南側に位置する「水沢館(楯山)」と関連する施設であった可能性が指摘されています。

本遺跡は近接するいくつかの遺跡とともに日本海東北自動車道の路線内にかかることになったおよそ 5400㎡のうち、平成 16、17 年の 1、2 次調査で 3900㎡、平成 18 年の 3 次調査で 750㎡、そして残った 750㎡について今年度第 4 次調査ということで行いました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、遺構としては 7 段の曲輪(くるわ)跡、溝跡 1 条、土坑 7 基、柱

穴 17 基を検出しました。

曲輪は旧地形である山の形を利用し、山側を削り谷側に盛り土をして 7 段分構築したことが、トレンチの断面からもそれぞれの曲輪上からも如実に伺い知ることができます。1 段目の曲輪からは、用途は不明ですが大きな溝が 1 条、それを取り囲むように土坑が 2 基と柱穴が 4 基検出しています。また 7 段目の曲輪では、土坑を 2 基、柱穴を 6 基検出しました。残念ながら建物跡や柵列を構成するような遺構は検出されませんでした。

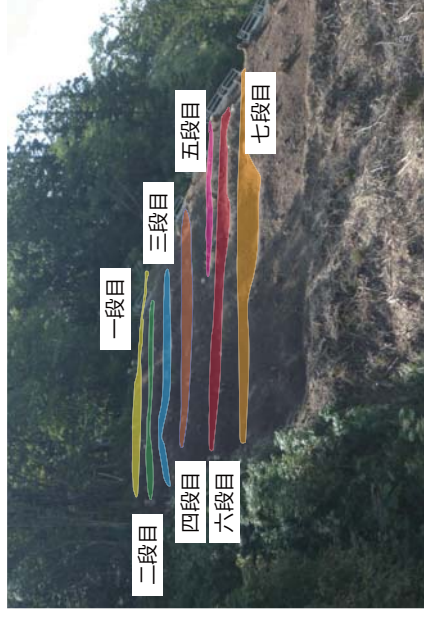
出土遺物としては、近世以降のものがほとんどで、瓦質土器の鉢の破片や陶磁器片、寛永通宝など約 50 点に上ります。

今後は検出された遺構や出土した遺物を詳しく調査・研究し、これまで知ることができなかった地域の史実を明らかにするとともに、報告書にまとめていく予定です。

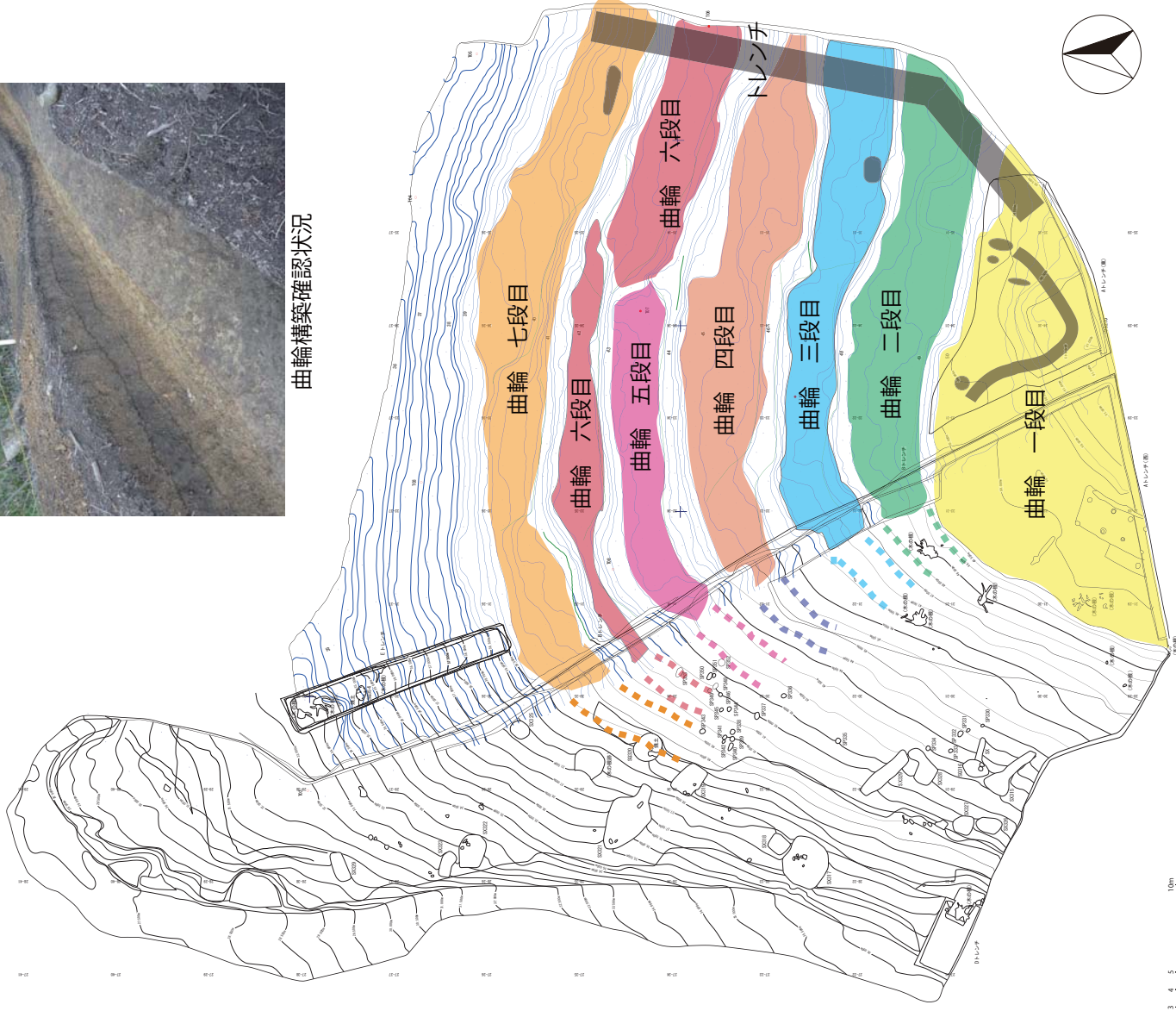
木の下館跡第4次調査 遺構配置図



曲輪構築確認状況



曲輪検出遠景写真



出土遺物



一段目 遺構検出状況

※第4次調査の測量図に第3次調査の測量図を合成